

レファレンス コーナー

照葉樹林の国—— ブータン

鈴木よ志子

ブータン王国は中国とインドに挟まれた日本の九州ぐらいの小さな国である。人口は約六六万人、その八五％が農業に従事している。経済的には輸出入ともインドが主要相手国である。政治・外交関係では、非同盟中立政策と善隣友好外交を保っている。インドとは一九四九年以来のインド・ブータン友好条約を結び特殊な関係にある。しかし、一九九〇年代末、インド・アッサム州の分離独立を求めるアッサム統一解放戦線（ULFA）等の過激派が南ブータンにキャンプを設置した。特に一九九八年以降、南ブータンを移動するブータン軍やアッサム州からブータン領内に移動しようとするブータン人が過激派に襲撃される事件が頻発した。ブータン政府は二〇〇三年一月以来、ULFAの最高指導者に主要キャンプを閉鎖するよう交渉したが決裂したため、ブータン首相は軍事行動を開始した（同年二月）との報道もあった。国境を挟んで比較的自由に人的交流および物流が盛

んに行われていたが、今後、この移民・難民問題が政治・社会・経済的に摩擦を生む可能性も否定できない。このような状況下にあるブータンを理解する一助となる資料をいくつか紹介する。

（１）旅行案内

ブータンは長い間、鎖国状態であり、国連に加盟したのが一九七一年で、日本と正式に外交関係を樹立したのは一九八六年である。日本人で初めてブータンを訪れた中尾佐助氏の『秘境ブータン』が出版されて以降、多くの人々が憧れてはいたが、一般的に入国し難い国であった。『ブータン 二〇〇三―二〇〇四』（ダイヤモンド社 二〇〇三年）は、『地球の歩き方』シリーズとしての改訂三版になる。ブータンは漸く誰もが出かけられる近い国になってきた。山本けいこ『はじめて知るブータン』（明石書店 一九九一年）、同『ブータン―雷龍王国への扉』（明石書店 二〇〇一年）もブータンに魅せられた著者のメモから生まれたガイドブックである。二冊とも巻末に詳細な文献目録を掲載する。

（２）ブータン王国事情

今枝由郎『ブータン―変貌するヒマラヤの仏教王国』（大東出版 一九九四年）は、ブータン国立図書館顧問として一九八一年から一九九〇年までブータンに滞在した著者が、ブータンは「日本人から見ると、秘境という遠さと、その逆に『ふるさと』的な近さの二極があるように

思われるので、その親近さゆえに見落としがちな違いにふれる」として、歴史、国家制度、民族問題、宗教生活等を概観している。西岡京治・里子夫妻による『ブータン―神秘の国』（NTT出版 一九九八年）は日本の初めての海外援助プロジェクトである「コロンボ計画」の専門家として参加し、二八年間（一九六四―一九九二年）の長きにわたる滞在を踏まえた西岡氏の等身大のブータン王国概観の記録である。絶版になってしたが、再刊され、後半の四分分は里子氏が加筆している。

（３）研究論文等

今枝由郎『ブータン中世史―ドゥク派政権の成立と変遷』（大東出版 二〇〇三年）は、著者がフランスで執筆した博士論文（一九八七年）の邦訳。チベット文化からの観点ではなく、ブータンの立場から書かれている。レオ・ローズ著／乾有恒訳／山本真与監訳『ブータンの政治』（明石書店 二〇〇一年）は原著 *The Politics of Bhutan*（一九七七年）の翻訳本である。構成は、第一章／歴史的社会遺産、第二章／外交、第三章／政治および公共政策、第四章／立憲制度と国家政治組織、第五章／ブータンの行政、第六章／変革の過程、となっている。巻末の監訳者解説の「ブータン政治―過去二〇年の歩み」は今日のブータン理解に役立つ。井上恭子「ブータン―開発行政の地方化を目指すもの」（『アジア研ワールド・トレンド』第六七号

二〇〇一年四月）は、従来の都市集中型開発ではなく地方中心の住民参加型開発を推し進めている実態を報告している。

（４）調査報告

世界中が近代化を推し進めるなかでブータンは、自然環境の保全、固有文化の保存を優先することを掲げた独自の政策に取り組んでいる。『グローバルゼーションに対する閉鎖系教育の教育様式―「実験国家」ブータンの場合』（京都大学ブータン教育調査隊 二〇〇〇年）『ヒマラヤ学誌』（第七号別冊）は、その実例を教育に取り、多面的に現地調査し、報告している。また、一九八八年以来、青年海外協力隊員は各国で活動しているが、ブータンへはすでに二〇〇〇名近く派遣されている。「国別環境情報整備調査報告書―ブータン」（国際協力機構ブータン事務所 青年海外協力隊環境部会 二〇〇三年）は、協力隊員自らによって調査・執筆された開発援助の現場からの貴重な報告である。

国際協力推進協会「開発途上国のIT政策と国際協力―事例研究…ブータン王国」（二〇〇二年）は近年、世界的規模で推し進められているIT革命がブータンの現状と今後にとどのような影響を与えるかについて、きめ細かい調査・分析を行い、国際協力を実施するうえでの支援策の提案をしている。

（すずき よしこ）／アジア経済研究所図書館